2018 年 5 月クルディスタン報告書

Reporta Kurdistanê Gulanê 2018’ê

日本クルド友好協会

南クルディスタン（イラク北部クルディスタン地域）

Başurê Kurdistanê

・イラク総選挙

クルド側は統一戦線を張ることはできず、クルディスタン民主党（KDP）とクルディスタン愛国者連盟(PUK)の「2 大勢力」を中心に分裂し選挙戦を行うことになった。特にクルディスタン愛国者連盟(PUK)の混迷ぶりが目立った。以前より PUK から分離していたゴラン（変化運動）はもとより「正義と民主主義連合」も新たに PUK から離脱し党派を形成した。1 日、KRG 副首相クバッド・タラバニは PUK から分離した諸党派は「和解」を呼びかけた[1 日、ルダウ]。12 日、PUK の部隊がゴランのスレイマニ選挙事務所を包囲し攻撃をしたとの情報が駆け巡った[12 日、ルダウ]。PUK 系メディアはこれを即座に否定したが、ゴランやクルディスタン共産党他諸派は PUK の暴挙について対応を協議した。

クルド人候補は KDP、PUK,、ゴラン、「新世代」といった主要なクルド系党派以外からも出馬した。アバディ率いる勝利連合から出馬したクルド人候補がいた。その一人バキル・ハビブは、クルディスタン地域の苦境を国民議会で訴えるべく、勝利連合に参加したが早々に撤退を表明した[7 日、ルダウ]。ハビブ氏はアバディの公約を「全て嘘」であると切り捨てた。アバディは先月クルディスタン地域で選挙活動を行ったが、クルド票獲得は早々に諦めたようだ。8 日、アバディ率いる「勝利連合」から出馬予定であったドホークの候補者は、KDP から出馬することを決定したと報じられた[8 日、ルダウ]。

クルド人はイラクに置いて少数民族であるが、さらにその中の少数派であるヤジーディは、今回の選挙を重要視している。ヤジーディの指導者タフシン・サイード・ベグは、ヤジーディかムスリムかであるかを問わず国民議会でクルド人が議席を得る重要性について語った[9 日、ルダウ]。2014 年に IS がシェンガルを占領しヤジーディを多数虐殺、奴隷化して以来、多くのヤジーディが国外に逃れていた。KDP から出馬するヤジーディ候補者には、最近帰国した者もいる。

KRG は、今回のイラク総選挙を地域内選挙布告の好機とした。8 日、KRG 首相ネチルワン・バルザニは、9 月に地域内の議会選挙を実施すると発表した[8 日、アルアラビア]。クルディスタン地域内の議会選挙は昨年 11 月に予定されていたが、独立を問う住民投票後の制裁への対処を理由に延期されていた。

今回の選挙は IS の脅威が残る中実施されることになった。ペシュメルガ関係者は選挙を狙った IS のテロを警告していた。アメリカも投票日を狙ったテロを警告した[11 日、ルダウ]。実際大きなテロ攻撃が発生することはなかった。

選挙結果は以下のようになった。

党派	指導者・支持母体	議席占有率	議席数	増減
改革のための革命連合	ムクタダ・サドル派	16%	54	新
征服連合	ハディ・アメリ(人民動員軍司令官)派	14%	47	新
勝利連合	アバディ大統領派	13%	42	新
クルディスタン民主党	クルド系	8%	25	0
国法連合	マリキ前大統領派	8%	25	–67
国民同盟	アッラウィ前大統領派	6%	21	0
国民英知連合	ハキーム派	6%	19	–10
クルディスタン愛国者連盟	クルド系	5%	18	–3
決断同盟	スンニ・アラブ系	4%	14	–9
アンバールは我が故郷	スンニ・アラブ系	2%	6	新
変化運動	クルド系	2%	5	–4
新世代	クルド系	1%	4	新
バグダッド連動		1%	4	
意志運動		1%	3	新
キルクーク・アラブ連合		1%	3	2
ニナワは我が故郷		1%	3	新
テュルクメン戦線(キルクーク)	テュルクメン系	1%	3	1
尖塔と国民大衆連合		1%	3	新
文明連合		1%	3	新
変化のための能力連合		1%	2	
バビロン連合		1%	2	
Biariq al-Khayr		1%	2	
民主主義と法連合	クルド系	1%	2	新
Eabirun		1%	2	
クルディスタン・イスラム協会	クルド系	1%	2	–1
クルディスタン・イスラム連盟	クルド系	1%	2	–2
大衆国民党		1%	2	
カルデア連合	クリスチャン系	0%	1	
カルデア・シリア正教会アッシリア人民評議会	クリスチャン系	0%	1	–1
市民民主同盟		0%	1	
民主的方法		0%	1	
Limya Shawi al-Hilaly		0%	1	
イラク人の行進		0%	1	
メソポタミア派		0%	1	–1
Tahaluf Salah al-Diyn Huiatna		0%	1	
ヤジーディ進歩党	クルド系	0%	1	
無所属		1%	2	
合計			**329**	**1**

投票率は 44%　出典:イラク独立高等選挙委員会

サドル派が最大の議席を獲得することになり、アバディ派は敗北となった。選挙後の会見でサドルはアバディと新政権樹立で協力する方針を明らかにした[20 日、バスニュース]。サドルは以前クルディスタン地域が独立するなら歓迎すると発言したと伝えられたことがあった。また昨年のキルクーク危機の際には、シーア民兵隊「人民動員軍」内のサドル派民兵に対し、速やかに撤退するよう要請をしたこともあった。クルディスタン地域やスンニ・アラブ住民といった少数派への対応が改善されるのか注目される。

クルド系で多くの議席数を占めたのは結局「2 大政党」であった。議席獲得数順位で KDP は 4 位、PUK は 8 位を占めた。ゴラン、新世代、民主主義と法連合といったクルド系少数政党の結果は振るわなかった。PKK 関係の議員が初めてイラク国民議会に議席を得ることになった[22 日、バスニュース]。彼らはいわゆる「新世代」候補として出馬し議席獲得をした。トルコ政府はこの結果に「憂慮」しているとのことであるが、具体的な措置は検討していないとのことである。

・トルコ軍の国境侵犯

トルコは先月と変わらずイラク領内における国際法違反の越境作戦を継続している。これに PKK も激しく抵抗しトルコ軍の犠牲は増えるばかりである。

アメリカ製対戦車ミサイルの使用をトルコ軍は憂慮する　出展：ゲリラ TV

31 日、PKK は自主メディア「ゲリラ TV」においてバルザン[1]でトルコ軍の陣地を攻撃する様子を収めた動画を公開した[31 日、ゲリラ TV]。攻撃自体は 13 日に実行され、9 人を殺害したと発表している。同日、トルコ軍はイラク国境地帯の PKK 掃討作戦で 3 名の兵士が戦死したと発表した[31 日、アラブニュース]。過去の本報告書でも触れたように、トルコは対クルド作戦の犠牲を公表が避けられない場合にのみ過小報告するのが常套手段である。シリアとは違いイラクではまだ大規模な軍事侵攻は控えている。それでも被害は無視できなくなっている。

1　前大統領マスード・バルザニ始めバルザニー族の故郷

ロジャバ（西クルディスタン、北シリア）

Rojava Kurdistaê

・再び吹き荒れる「ジャジーラの嵐」

IS 掃討作戦の再開を発表する SDF　出展：ユーフラテスニュース

1 日、シリア民主軍（SDF）は IS からのデリゾール解放作戦「ジャジーラの嵐」を再開すると発表した[1 日、ユーフラテスニュース]。本作戦はトルコの侵略行為への対応を理由に中断されていた。それに呼応しアメリカ軍艦艇は地中海からクルド人部隊を支援した[7 日、ロイター]。昨年 12 月同様、イラク軍も SDF を支援した。アバディは、イラク空軍がシリア領空に進入し IS の陣地に空爆をして、SDF の支援を行ったことを明らかにした[6 日、バスニュース]。

SDF は IS からの大きな抵抗に直面することなく順調に進撃を続けた。SDF はイラク国境、シリア・アラブ軍に隣接する戦略的要地を IS から奪還した[20 日、クルディスタン 24]。トルコ軍から北シリアを守るため駐留するフランス軍もクルド人勢力に砲撃支援した[20 日、「過去」]。トランプ政権はシリア北西部での支援事業を中止し、その分北東部への支援を手厚くする方針であることが明らかになった[20 日、CNN]。デリゾールはシリアの天然資源埋蔵量の大半を占める重要な地域である。

SDF の進撃を目の当たりにした敵対勢力は、僅かな事実を過大に報じるプロパガンダ作戦を盛んにしている。反体制派メディアは、「ジャジーラの嵐」参加するアラブ人戦闘員が「民族差別」を理由に戦線離脱したと報じた[8 日、アルアラビア]。シリア反体制派はイスラム原理主義者が多数であるのと、トルコに支援を受けていることからクルド勢力を敵視している。SDF はラッカで起こった反乱を鎮圧するために兵力を転進したと報じられた[31 日、ファールスニュース]。北シリアは元来それぞれ対立する複数の民族、アラブ系部族の勢力が複雑に入り込んでいる地域である。この手の「反乱」騒動はクルド人の支配以前、IS 支配下でも繰り返し報じられていた。しかし、それが IS 支配を揺るがしたことはない。

・シリア未来党

先月タブカで設立された「シリア未来党」指導者のインタビューが実施された[7 日、ハワルニュース]。設立メンバーによると党の目的は、タブカ解放に伴う政治的空白に乗じて旧来の自民族・部族中心主義の跋扈を防ぐことと、党名の通りシリア内戦の解決に向けた施策を提案することだという。シリアの領土的一体性の擁護しながら、シリアの民主化を究極の目標としている。先月発表された綱領によるとシリアで生まれた人であれば、出生地、民族、部族を問わず党員になれる。政権の移行、民主化に関する議論は、シリア和平に際して重要な位置を占める。PYD は戦後を見据えて、自身の代わりに同党を進歩国民戦線に加盟させ、クルド人の意見を国政レベルで届けようとしていると見ることができる。

・薬物汚染対策

北シリア治安当局は薬物取引の根絶に向けた摘発を続けている。北シリアはイスラム過激派が跋扈する以前からヘロインを密輸するルートしてよく知られていた。IS がアフガンその他から流入する薬物取引に関与し資金源とし、一方で戦闘員に「興奮剤」として投与していたことが知られている。27 日、ハサカで薬物取引を行っていた二人の男を逮捕したと発表した[28 日、ロジャバ警察 Facebook]。押収さ

れたのは話題のオピオイド系錠剤他乱用薬物であった。29 日には、二人の薬物密売人を逮捕したと発表した[30 日、ロジャバ警察公式サイト]。PKK はかつてコロンビアの FARC と同じく薬物取引に関与し資金源としていたとも言われる。PKK の流れを汲む PYD は今や北シリアに政府を樹立し、IS 始め敵対するイスラム過激派勢力の資金源となるこれら密輸を根絶しようと躍起になっている。カミシュロで毒物を食品に混入していた男を逮捕されたように、違法薬物の流入は治安上の重大な脅威になる[7 日、:ロジャバ警察 Facebook]。この地域の密輸を根絶することができれば、麻薬の流入に苦慮する EU 諸国は PYD による統治をさらに有益だと見るであろう。

・「援助ではなくアフリンを」の声高まる

クルド赤新月社は、コバニにおける医療支援の終了をアナウンスした[19 日、クルド赤新月社 Facebook]IS による包囲から逃れたコバニの避難民は、全て故郷に帰還したため支援は任務を完了したとのことである。一方でトルコのアフリン侵攻から逃れた難民の状況は悪化している。シャフバの「抵抗」難民キャンプのアフリン住民たちはロシアの援助物資搬入を拒否し、援助ではなくアフリンを求めると叫んだと伝えられた[30 日、ハワルニュース]。多くのクルド人はエルドアンのアフリン侵略の背景にプーチンの許可があったと信じている。クルド人に対する裏切りを僅かな物資で償おうとする姿勢に怒りが沸き起こったとしても不思議ではない。

・トルコ支配の緩み

トルコ軍はアフリンを陥落させ北シリアの広範囲を支配下に置いているが、秩序の安定には未だ成功していない。トルコ警察の訓練を受けた「シリア人」620 人が治安維持活動についたとトルコ紙は報じた[9 日、「自由」紙]。破壊活動を続けるクルド人勢力の掃討と、トルコ軍の傭兵勢力の犯罪行為抑止の両方に無力である。YPG は東グータからアフリンへ落ち延びてきたテロリストの司令官殺害を実行したと発表した[6 日、故郷の葡萄]。YPG が仕掛けた地雷や爆発物、ゲリラ攻撃はやっと安息の地を見つけたはずのテロリスト達に恐怖心を植え付けている。一方でそれらは市民にも被害を出していると言われている。トルコは東グータから逃れた「神の軍団」に月給を支払うことで、対クルド作戦に従事させようとしている[15 日、シリア人権監視団]。

トルコ軍傘下の武装勢力「東方の民」と他の勢力との間で戦闘が発生した[6 日、ハワルニュース]。トルコ軍傘下勢力が占領するアルバーブの街区を「東方の民」の戦闘員たちは包囲し迫撃砲他重火器で攻撃したとされる。現地の活動家によるとトルコ軍司令部は事態の沈静化について住民に布告したが、

戦闘はその時点でまだ続いていたという。この戦闘を受けてバーブでは、トルコ占領軍とその傭兵である反体制派に対する市民のデモが発生した[6 日、シリア人権監視団]。トルコ占領部隊はこれに対し発砲したとされる動画が SNS 上で多数シェアされた。

AKP 設立メンバーであり元外相のヤシャル・ヤクシュは、トルコのシリア介入に多くの困難があることについてアラブ系ニュースサイトに寄稿した[7 日、アラブニュース]。彼によれば問題の多い反体制派勢力の利用やアメリカとの関係悪化は、トルコ主導のシリア占領に暗い影を落とすであろうということである。

・アメリカの影響力排除へ動くアサド

アサドは昨年アレッポを落とし、東グータの支配も回復するに及び戦後の議論を本格的にするようになってきた。アサド政権の支配下にないシリアの地域のうち、北シリアと南のダルアー、タンフがアメリカ軍の影響下にある。ヌスラ戦線が本拠地を構えるイドリブは、最大の奪還目標だが、トルコ軍が既に進駐しシリア・アラブ軍の進攻を防いでいる。またロシアはトルコを自国が主導するシリア和平の枠組みに巻き込むため、イドリブへの進駐を黙認している。アメリカ軍駐留地が標的にされるのである。SDF が「ジャジーラの嵐」作戦を再開しデリゾールの IS 支配地を次々奪還し、アメリカもこの戦略的地域の権益確保を目指すに及び、アメリカ軍の撤退に本気の姿勢を見せるようになった。

アサドは SDF の処遇について武力行使をちらつかせながら選択肢を述べた[31 日、デイリーメール]。イランの影響力排除を目指すトランプ政権の動きを牽制する意図もある。思い付きに見えるトランプのアラブ連合軍構想の背後に、クルドとアラブの連携によるイランの勢力拡大阻止という思惑があると言われる[6 日、イスラエル民族ニュース]。

北クルディスタン（トルコ領南東部）

Bakurê Kurdistanê

・トルコ総選挙

クルド系最大政党人民民主党(HDP)は大統領候補に獄中の元共同代表デミルタシュを指名した[4 日、「自由」紙]。今回の選挙でカギを握るのはクルド票だと言われている。HDP は新体制に移ったばかりであり、大統領候補者は獄中にある状況で、最大野党共和人民党(CHP）はクルド人向けの宣伝に力を入れている。CHP 大統領候補インジェは公約にクルド問題の解決に向けた取り組みの再開を掲げた[6 日、「自由」紙]。またインジェは、在トルコ EU 大使との会食においてデミルタシュの家族を訪問する意向を明らかにした[24 日、トルコ詳報]。AKP とトルコ人種主義政党民族主義行動党（MHP）の陣営を前に、野党の CHP、中道右派「いい党[2]」、イスラム系「至福党」が共同戦線を張っている。野党連合はほぼ強力なエルドアン陣営を前にした野合である。HDP はあくまで自主路線をとる構えだ。HDP は、野党統一戦線に加わるとのクルド・ヒズボラの提案を一蹴した[7 日、「共和国」紙]。CHP は過去に HDP 議員の特権剥奪を支持したこともある。デミルタシュは HDP 抜きでの反エルドアン連合は成立しないと発言し、野党連合にクルド人の位置づけを明確にするよう迫っている。[20 日、情況]。HDP が浮足立ち、この野合に加わればクルド人の支持を落とすことになる。そうなれば今回の選挙で権力の強化を目指すエルドアンにとって、再選以上の果実となる。

17 日、大統領選候補セラハティン・デミルタシュは、大統領選挙にあたり自身の資産を公開した[17 日、中東日報]。利益供与、贈収賄の噂が絶えないエルドアンに対して、デミルタシュの清廉なイメージはかねてより脅威であった。息子はマネーロンダリング容疑で国外で逮捕されたことがあったり、現在子飼いの政商が金の密輸によりアメリカで拘留されているエルドアンにとって有効な一撃となった。

2　トルコ語の党名は「İYİ Parti」。日本語とトルコ語で「いい」という語の発音、意味は共通である。

エルドアンはアフリンでの「成功」を喧伝し、冒険主義により支持者の歓心を買おうとしている。6 日、エルドアンはイスタンブールにおいて支持者の前でシリアで新たな軍事作戦を行うと発言した[6 日、ロイター]。2015 年 11 月の選挙以来、公正発展党(AKP)、エルドアンに投票した有権者は治安維持や安全保障面を重視したと言われる。エルドアンが再選後に行うであろう暴挙にが今から不安視されている。

・「エルドアンはもう十分だ」がトレンド世界１位へ

「TAMAM」含むツイートが突如ツイッタートルコ語ユーザーのタイムラインを埋め尽くすことになった。これはトルコ語で通常「大丈夫」「問題ない」といった意味で使われるが、「十分だ」という意味にもなる。8 日、エルドアンは「国民が問題ない（TAMAM）と言えば、我々は前進する」と発言した。エルドアンの発言後、9 日 8 時には 190 万以上のツイートが投稿されトルコ及び世界全体でトレンド 1 位を獲得した[9 日、労働新聞]。エルドアンの発言を逆手に取って、トルコの有権者は「エルドアンはもう十分だ」という声を上げたのである。世界各地の離散クルド人にとって母国の同胞に連帯を示す合言葉になった。イギリスのクルド人と連帯する活動家たちは、ウェストミンスター橋に件のハッシュタグを書いた垂れ幕を掲げた[15 日、クルディスタン連帯キャンペーン]。

出典：クルディスタン連帯キャンペーン

8 日、AKP 広報は自身のツイッターで「ツイートの大半はギュレン派と PKK のシンパによるものだ」と投稿し、一連の動きを批判した[9 日、「自由」紙]。

・リラ暴落

クーデター騒動後の危機を越え好調に見えていたトルコ経済に突如暗雲がたちこめた。クーデター騒動以来のリラ暴落だ。トルコ副首相は格付け会社スタンダード＆プアーズによるトルコ国債の格下げを非難した[7 日、「自由」紙]。格付け会社フィッチが、エルドアンの経済政策への疑問を表明すると、トルコ・リラは急激な下落を開始した[22 日、]。ブルームバーグはトルコ証券会社の「強い指導力」を求める

声について報じた[22 日、ブルームバーグ]。CHP 大統領候補インジェはリラ下落に触れ、エルドアンの経済政策を非難した[23 日、NTV]。野党の結束が弱く単独で AKP-MHP 連合に対抗できる勢力がない現状、リラ暴落はエルドアンの再選に障害になるよりかは、国外の権益を武力で奪うさらなる冒険主義に拍車がかける可能性が高い。

・選挙運動の「ヨーロッパ戦線」

ヨーロッパ各国は在外票を狙った AKP の選挙活動を認めない方針だ。AKP 支持者は自国のことは棚に上げてヨーロッパの民主主義の欺瞞性について盛んに議論している。エルドアン政権寄り新聞は、ドイツ・ゾーリンゲンにおいて PKK に抗議したトルコ人がドイツ警察に暴力を振るわれたと報じた[31 日、「朝刊」紙]。エルドアンはムスリムのモスレム人が多いボスニアで AKP の選挙集会と行進を行った[21 日、アルジャジーラ]。選挙活動を禁止されたドイツ他から AKP を支持するトルコ人がサラエボに集結した。ボスニアは住民はユーゴ内戦の折からのトルコの支援のためエルドアンの訪問を歓迎したという。一方で EU に加盟していないボスニアを影響下に置こうとしているのではないという疑念の声も存在する。さらには EU 諸国が禁じたトルコの選挙運動をボスニアが容認することで、EU 加盟への道がトルコ同様断たれるのでないかと危惧する声も出ている。

・周辺国との緊張続く

トルコはかつて軍事侵攻し傀儡国家を立てたキプロスと今回のアフリン侵攻の比較、類推にいら立ちを見せている。トルコ系住民を使った新聞社の襲撃等言論弾圧をおこなっている。北キプロスのジャーナリストは、アフリンについて書くことを止めないと発言した[8 日、情況]。8 日、ギリシャはトルコから亡命した将校の保護を決定した[8 日、トルコ詳報]。ギリシャは、エルドアンの要求には応じないという姿勢を、これでさらに鮮明にした。エルドアンは最近ギリシャ、キプロスへの軍事挑発を強めているが、その理由がエーゲ海の海底ガス田にあると言われている。31 日、ギリシャのエネルギー企業エネルジーンは、イスラエル沖のガス田開発に着手したと報じられた[31 日、日経産業新聞]。イスラエルはイラクのクルディスタン地域からの石油をトルコのイスケンデルンを経由して輸入している。イラクと地中海をつなぐジェイハン・パイプラインは度々停止し不安定であった。またイスラム世界の指導者を演出するエルドアンは、パレスチナ問題でイスラエルを非難を強めている。さらにエルドアンはイスラエル大使に国外退去を命じた[15 日、TRT]。

東クルディスタン(イラン領西部)

Rojhilatê Kurdistanê

・クルド人活動家の助命嘆願の拡大

2 日、アムネスティインターナショナルは、イランのクルド人に対する死刑を中止するよう勧告した[2 日、地域]。彼は今年 1 月に死刑判決が下されて以来、国外を中心に助命嘆願がなされてきた。イラン当局は死刑判決の理由として「国家に対し武器をとり反逆した」としているが明確な証拠は提示していない。イランのクルディスタンにおいて、クルド人はこれといった理由もなしに頻繁に絞首刑に処され、しかも公衆の面前で執行がなされている。

・コルベル問題

31 日、イスラム革命防衛隊は、クルド人荷運び人「コルベル」の集団に無差別発砲をし、26 人のコルベルが殺害された[31 日、ユーフラテスニュース]

・シーラーズ近郊で抗議デモ発生

16 日夜、イランのカズランでは政権に対するデモが発生した[17 日、モジャヘディーネ・ハルク公式サイト]。カズルンはファールス州に属し観光地シーラーズから車で約 2 時間程度離れた町である。昨年シーラーズ市議会は、カズルン行政区に属する町を分離し新たな行政区を設立することを決定した。そうなると予算配分でカズルンは不利益を被ることは明らかである。カズルン市民はこの計画が実行に移される始めたことに実力で抗議を開始したとのことである。

当局の弾圧に屈せず抗議をするカズラン市民　写真：モジャヘディーネ・ハルク

この抗議運動は今年 1 月から断続的に続いており、今回また抗議運動が激化したとのことである。政権は抗議運動の情報が外部に漏れ、また各地に呼応する動きがおこることを危惧し、道路を封鎖し通信を遮断しカズランを孤立状態においた。22 日には抗議運動は鎮圧へ向かったが、市の管理権が一時革命防衛隊に委ねられたとの情報もあった[22 日、同上]。政権は一連の騒動に危機感を頂いたことがうかがえる。次の「イラン革命」とそれに伴うクルディスタンの自由獲得の機運は高まっている。

文責：日本クルド友好協会研究員　並木宜史